

令和5年度献血推進計画における県及び血液センターの取組状況

令和5年度献血推進計画	取組状況																																																						
<p>本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）の規定に基づき定める「血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針」（平成31年厚生労働省告示第49号）及び「令和5年度の献血の推進に関する計画」（令和5年2月28日厚生労働省告示第44号）に基づき、次のとおりとする。</p> <p>1 献血目標</p> <p>令和5年度に目標とする献血量は全血献血で86,119リットル、血小板成分献血で21,483リットル、血漿成分献血で38,674リットルの合計146,277リットルとし、確保すべき献血者数等の目標の内訳を次のとおりとする。</p> <p>内訳</p> <table border="1" data-bbox="237 871 1061 1278"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>献血量（L）</th> <th>献血者数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">全血献血</td> <td>200mL献血</td> <td>1,112</td> <td>5,558</td> </tr> <tr> <td>400mL献血</td> <td>85,008</td> <td>212,519</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>86,119</td> <td>218,077</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成分献血</td> <td>血小板</td> <td>21,483</td> <td>39,329</td> </tr> <tr> <td>血漿</td> <td>38,674</td> <td>69,260</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>60,157</td> <td>108,589</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>146,277</td> <td>326,666</td> </tr> </tbody> </table>			献血量（L）	献血者数（人）	全血献血	200mL献血	1,112	5,558	400mL献血	85,008	212,519	小計	86,119	218,077	成分献血	血小板	21,483	39,329	血漿	38,674	69,260	小計	60,157	108,589	合計	146,277	326,666	<p>●：県 ○：血液センター ◎：県・血液センター合同、市町村、国</p> <p>○ 献血状況（令和5年12月末現在）</p> <p>全血献血 63,394 L（達成率 73.6%） 血小板成分献血 17,132 L（達成率 79.8%） 血漿成分献血 31,146 L（達成率 80.5%）</p> <p>内訳</p> <table border="1" data-bbox="1227 871 2016 1286"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>献血量（L）</th> <th>献血者数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">全血献血</td> <td>200mL献血</td> <td>1,571</td> <td>7,852</td> </tr> <tr> <td>400mL献血</td> <td>61,823</td> <td>154,556</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>63,394</td> <td>162,408</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成分献血</td> <td>血小板</td> <td>17,132</td> <td>30,313</td> </tr> <tr> <td>血漿</td> <td>31,146</td> <td>56,099</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>48,278</td> <td>86,412</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>111,672</td> <td>248,820</td> </tr> </tbody> </table>			献血量（L）	献血者数（人）	全血献血	200mL献血	1,571	7,852	400mL献血	61,823	154,556	小計	63,394	162,408	成分献血	血小板	17,132	30,313	血漿	31,146	56,099	小計	48,278	86,412	合計	111,672	248,820
		献血量（L）	献血者数（人）																																																				
全血献血	200mL献血	1,112	5,558																																																				
	400mL献血	85,008	212,519																																																				
	小計	86,119	218,077																																																				
成分献血	血小板	21,483	39,329																																																				
	血漿	38,674	69,260																																																				
	小計	60,157	108,589																																																				
合計	146,277	326,666																																																					
		献血量（L）	献血者数（人）																																																				
全血献血	200mL献血	1,571	7,852																																																				
	400mL献血	61,823	154,556																																																				
	小計	63,394	162,408																																																				
成分献血	血小板	17,132	30,313																																																				
	血漿	31,146	56,099																																																				
	小計	48,278	86,412																																																				
合計	111,672	248,820																																																					

2 前項の目標を確保するために必要な措置

(1) 献血に関する普及啓発活動の実施

ア 若年層に対する普及啓発活動の実施

県、市町村、日本赤十字社神奈川県支部（以下「日赤県支部」という。）及び神奈川県赤十字血液センター（以下「血液センター」という。）は連携を図り、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進に取り組む。

(ア) 動画、SNS等を活用した広報

県、市町村及び血液センターは、「献血はいのちを救う」というメッセージを若年層が親しみやすい動画やツイッター、ホームページ等の広報手段を用い、気軽に目に触れる機会を増やして発信し、献血への行動につなげる効果的な広報を展開する。

【取組内容】

- ・ YouTube、デジタルサイネージ、ホームページ等による動画の放映
- ・ Facebook、Twitter、Instagramを活用したイベント情報提供

(イ) 生徒・学生に対する普及啓発

血液センターは、県及び市町村と連携し、献血の大切さや助け合いの心について啓発する献血セミナーを実施するほか、献血可能年齢になる高校生以上の生徒・学生に対する普及啓発を推進する。

また、献血セミナー等をきっかけとして献血に関心を持った献血未経験者等に、献血Web会員サービス『ラブラッド』への登録を働きかける。

【取組内容】

- ・ 中学校、高等学校等における献血セミナーの実施

○ 動画

- ・ 動画「LIFE GOES ON」
高等学校等の献血セミナー・協力団体等での放映
- ・ 動画『つなげ、その「ち」からプロジェクト』
横浜駅西口 YOKOHAMA VISIONでの放映
令和5年11月～令和6年4月

○ SNSにおける情報発信の強化

- ・ 従来の親しみやすい投稿に加え、輸血を受けた方やその家族からの感謝メッセージの発信を強化して献血の必要性を訴えた。
- ・ Xの独自アカウントを持っている献血ルームでは、予約状況を定期的な情報発信および地域性のある投稿により献血者確保につなげた。

X投稿数：1,393投稿（前年同期間：297投稿）

Facebook投稿数：316投稿（前年同期間：188投稿）

※共に令和5年4月～12月まで

※Xの投稿数は、血液センターおよび各献血ルームの合算

○ 献血セミナー

- ・ 献血セミナー、職業体験等実施状況

年度	実施数	参加人数
令和5年度 (12月末現在)	20か所	2,371人
令和4年度	31か所	971人
令和3年度	23か所	1,365人

- ・協力が得られる高等学校、大学等での献血の実施
- ・高校生に対する啓発資料の配布
- ・大学連携ポータルサイトを活用した情報発信

○ 高校献血の実施状況（校内実施分）

年度	実施数	配車台数	献血者数
令和5年度 (12月末現在)	5校	10.0台	454人
(今後の予定)	2校	3.5台	120人
令和4年度	7校	17.0台	657人
令和3年度	7校	19.0台	765人

○ 高校生への啓発チラシ配布

- ・県立、私立高校計238校の3年生約59,750人に
啓発チラシを配布（11月）
- 12月末現在、332名が、献血ルームでの献血に協力



● 大学連携ポータルサイトを活用した広報

イ 幼少期の子どもとその保護者を対象とした普及啓発活動の実施

県及び血液センターは、子どもの頃から献血に触れ、献血の大切さを知ってもらうため、親子で一緒に献血に触れ合えるよう、血液センター等を活用した啓発を行う。

【取組内容】

- ・キッズ献血の実施

ウ 神奈川県学生献血推進連盟との協力活動

県及び血液センターは、献血推進活動を行うボランティア組織である神奈川県学生献血推進連盟と協力し、若年層に献血の大切さを積極的に周知する。

【取組内容】

- ・キッズ献血（献血疑似体験イベント）への運営協力依頼
- ・ハロウィン、クリスマス時期の献血会場等での献血の呼びかけを依頼

○ miniキッズ献血の実施

8月23日（木）イオンモール大和 90名参加（お仕事体験会の名目で実施）

- ・血管探しゲーム、疑似献血体験、模擬血液展示、供給車展示
- ・けんけつちゃんとの写真撮影（子供用の看護師服や災害救護服着用）
- ・中学生以下を対象に実施
- ・献血も同時開催
- ・イオンモール大和店が開催するお仕事体験イベントに合わせて、テナント各社もお仕事体験を実施。
- ・昨年は、土曜日にお仕事体験イベントが開催されたが、今回は平日開催だったため、昨年と比べると来場数は少なかった。

○ 神奈川県学生献血推進連盟による献血推進活動

活動実績 イベント数7、延べ人数31人

※献血会場での呼びかけ・製造所見学による知識研鑽



学生が力を合わせて献血PR

（左 8/16桜木町駅前・右 9/7二俣川献血ルーム）

エ 企業等における献血の推進

(ア) 企業・団体に対する取組の推進

血液センターは、県及び市町村と連携し、献血に協力していただける企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、集団献血の実施を含む企業等における献血の推進を促す。

(イ) 献血バス日程の広報

市町村及び血液センターは、地域における移動採血車の配車日程を広報し、効果的に献血が行われるよう住民に情報提供を行う。

【取組内容】

- ・市町村のホームページ、広報紙等による情報提供

○ 企業や団体の所属する上部団体への働きかけ

生命保険協会神奈川県協会による献血協力

○ 献血協力企業・団体の開拓

〔献血推進計画『献血推進2025』安定的集団献血の確保〕

令和5年度（神奈川県内）協力企業団体数 631団体

新規開拓数 30会場

新規実施会場例：JR貨物川崎車両所・中外製薬LSP横浜・ローム・
ソニーシティ・ロピア綾瀬店・ベルク厚木船子店・
アマゾン相模原FC・アマゾン平塚DS他

● 企業団体会報誌への寄稿

- ・『くすりと化粧（神奈川県製薬協会機関誌）』
令和6年 1月発行「血液事業について」
- ・『神用（神奈川県医療機器工業会会報）』
令和6年 3月発行（予定）「企業献血へのご協力をお願い」

○ 献血バス配車日程の広報

- ・神奈川新聞への配車日程の掲載
- ・血液センターHPでの配車日程の掲載

◎市町村が発行する広報誌に配車日程を掲載

相模原市、厚木市、小田原市

(ウ) 職員献血の実施

県及び市町村は、各職員に対して、献血への積極的な協力を呼びかけるとともに、献血しやすい環境作りを推進する。

【取組内容】

- ・職員献血の実施

オ 複数回献血の推進

血液センターは、複数回献血者の継続的な協力が得られるよう、複数回献血クラブ『ラブラッド』のWeb会員の増強を図り、Webサービスを用いた依頼要請により予約献血など効果的な取り組みを行う。

カ 献血推進キャンペーン等の実施

(ア) 献血推進キャンペーン

県、市町村及び血液センターは、国が全国的に実施する「愛の血液助け合い運動」（7月）、「はたちの献血キャンペーン」（1～2月）において、献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかける。

【取組内容】

- ・ポスター等の啓発資材を作成し、関係機関等へ配布

◎職員献血の実施

・県職員献血の実施

令和5年5月25日	受付者数	65人	献血者数	64人
令和5年8月8日～9日	受付者数	104人	献血者数	92人
令和6年1月16日～17日	受付者数	98人	献血者数	93人

・市区町村の実績（合算）

令和5年4月1日～12月31日	受付者数	3,941人	献血者数	3,464人
-----------------	------	--------	------	--------

○ 献血Web会員サービス「ラブラッド」

令和4年9月、（献血協力者）へのサービス向上を目的として、「ラブラッドアプリ」を導入。

令和5年12月末現在（令和4年12月末時点）

・Web会員数	370,381人	(324,763人)
・成分献血予約率	93.6%	(91.8%)

● ポスターの配布

・愛の血液助け合い運動	7月1日～31日	1,640枚
・はたちの献血キャンペーン	令和6年1月1日～2月28日	1,640枚

※キャンペーンごとに県及び血液センターのホームページによる広報

- 横浜エリア27カ所、川崎エリア14カ所のデジタルサイネージによるキャンペーン広告の掲出 令和6年1月1日～1月31日（「はたちの献血」キャンペーンの周知及び近隣献血ルームの案内）

(イ) 効果的な広報手段を活用した取組

県、市町村及び血液センターは、様々な広報媒体の活用やイベントの実施等を通じて、血液製剤の重要性、献血をとりまく諸課題を踏まえた現状、血液製剤の利用実態等に関する情報を提供するなど、県民に対して献血への理解と協力を呼びかける。

(ウ) 献血協力企業・団体への表彰

県及び日赤県支部は、長年にわたり献血に協力していただいている企業・団体に対して表彰を行う。

【取組内容】

- ・神奈川県知事賞
- ・県保健福祉事務所長賞
- ・日赤県支部長表彰

- 小田原駅東西自由通路デジタルサイネージによるキャンペーン広告の掲出
 - ・令和5年7月1日～7月31日（愛の血液助け合い運動）
 - ・令和5年1月1日～2月29日（はたちの献血キャンペーン）
- 『薬壺（神奈川県薬剤師会会誌）』
 - ・令和5年 7・8月号 愛の血液助け合い運動
 - ・令和6年 1・2月号 はたちの献血キャンペーン
- 血液センターFacebookとTwitterを活用した情報提供
- 県のたより 令和6年1月号「はたちの献血キャンペーン」
 - ・横浜F・マリノスの協力を得て、選手からのメッセージを掲載。
- 県公式ウェブサイトトップページ トピックス欄への掲載
 - ・令和5年12月28日～令和6年1月31日 はたちの献血キャンペーン
- 県公式X（旧Twitter）を活用した情報提供
- 毎日新聞 特集記事「ささえあって」令和5年4月27日

- 献血推進功労者知事表彰
 - 知事表彰状 19団体
 - ※表彰式 令和5年11月14日実施
- 保健福祉事務所長表彰
 - 保健福祉事務所長表彰状 8団体
- 日赤表彰62団体

- ◎厚生労働省大臣表彰状・感謝状（令和5年7月26日付け）
 - 厚生労働大臣表彰状 3団体
 - 厚生労働大臣感謝状 5団体
 - ※伝達式 令和5年8月2日実施

(2) 献血推進協議会の開催

県は、献血や血液製剤に関する県民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、協議会を開催する。また、献血推進計画の策定、献血や血液製剤に関する教育、啓発の検討等について、採血事業者及び血液事業に関わる民間組織等との連携強化を図る。

(3) 献血の推進に際し、考慮すべき事項

ア 献血会場の提供

県及び市町村は、移動採血車による日程を血液センターと協議し、献血会場として公共施設を提供するなど、献血の受入れが円滑に行われるよう必要な措置を講じる。

イ 血液製剤の安全性の確保

県、市町村及び血液センターは、献血受付時の本人確認や問診の徹底及びH I V等の感染症の検査を目的とした献血の防止について、平素から周知を図り、医療機関等での検査の受診を促す。

ウ 血液製剤の在庫水準の把握と不足時の対応

県及び血液センターは、血液製剤の在庫水準を随時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合は、供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、各市町村への緊急献血の呼びかけなど必要な措置を講ずる。

エ 献血ルームの広報

県及び血液センターは、県民が献血ルームを利用しやすいように、ツイッターやホームページ等の様々な広報媒体の活用やリーフレットの配布等によりPRを積極的に行う。

● 令和6年2月5日開催

- 議事 (1) 報告事項 令和5年度献血事業
保健医療計画（献血関係）
(2) 協議事項 令和6年度神奈川県献血推進計画（案）

◎ 県内各市町村

ホームページなどで、献血実施日、場所を事前に周知
啓発物品とリーフレット配布、併せて献血協力の呼びかけ依頼（2月）

◎ 血液在庫量の情報共有

「緊急献血のお願い」のHP掲載実績なし

● 県ホームページ、血液センター X（旧Twitter）とFacebook を活用した情報提供

【再掲】

オ 献血関係機関会議の開催

県は、より効果的に献血事業の推進が図れるよう、必要に応じて関係機関等と会議を開催し、献血推進に関する課題等について検討するとともに、情報交換の場として活用する。

3 災害時における血液確保等について

(1) 神奈川県地域防災計画に定める措置

県及び日赤県支部は、「災害用血液製剤の確保に関する協定書」に基づき、災害時において血液が円滑に供給されるよう「神奈川県地域防災計画」に定める所要の措置を講ずる。また、血液センターは災害時等における献血の受入れ体制を整備するとともに、県及び市町村と連携して広域的な血液の確保に努める。

(2) 新興・再興感染症まん延下の対応

血液センターは、新興・再興感染症まん延下においても、医療需要に応じた血液製剤の安定供給を図るため、安心・安全な献血環境の保持と献血者への感染防止を図るとともに、様々な広報媒体を活用して献血への協力を呼びかける。また、県及び市町村は、血液センターの取組を支援する。

○ 防災訓練における血液製剤搬送訓練の実施（令和5年9月5日）

○ 新興・再興感染症まん延下の対応

安心してご協力いただくための献血会場に於ける感染症予防対策の強化。
混雑による密を回避するために事前の「予約献血」の推進。

血液センターHP、SNS、献血Web会員サービス「ラブラッド」を活用した感染予防対策等の発信強化、および献血ご協力の呼びかけ。

※献血会場に於ける感染症対策の取り組み例

献血会場における
新型コロナウイルス
感染対策について

① 入会時の新体制

マスク着用	体温測定	手洗い又は 手指消毒
-------	------	---------------

② 献血時 献血者ご自身の注意

事前予約	少人数でご来場	十分に採血した後は 速やかに帰宅
------	---------	---------------------

③ 献血会場内の感染対策

献血のマスク着用・ 体温測定・消毒液の 用意	換気と消毒清掃の 徹底	手指消毒液の 設置
------------------------------	----------------	--------------

日本赤十字社 献血センター 献血推進課

新型コロナウイルス感染症に関するお願い

献血前

以下に該当される方は
「献血」を「延期」いただいております。

- 新型コロナウイルス感染症に診断された、または新型コロナウイルス感染症
の疑いがある状態（発熱、呼吸器症状）で発症したことがある、軽症から、病
愈の兆候は無いとなった場合の症状が持続する）と「献血の日の
●献血日の前日～前日直前の2日間、中等症から重症の新型コロナウイルス
感染症が疑われる状態（呼吸器症状）から2週間以内の回復（軽症）から3日
以内の
●検査されている方が新型コロナウイルス感染症に感染し、発症日から
1週間以内の方

献血後

献血にご協力いただいた方へ
以下に当てはまる場合は、献血日、氏名、生年月日を、
できる限り早く「献血センター」にご連絡をお願いします。

- 献血後2週間以内に
①「新型コロナウイルス感染症」と診断された、または新型コロナウイルス
の疑いがある状態（発熱、呼吸器症状）が持続した。
②発熱及び咳・呼吸器症状などの症状が改善された新型コロナウイルス
感染症が疑われる状態になった。
●献血日までに「思っていた方が新型コロナウイルス感染症または
疑いがある状態になった。

ご自身の症状もご確認くださいませ。
ご質問は献血センターへお問い合わせください。ご不明な点については
献血センター 献血推進課 電話：03-3508-1111
<https://www.jrc.or.jp/03-3508-1111/search/bleedcenter>

日本赤十字社